

第3学年1組 国語科学習指導案

児童数 37名  
指導者 近藤 隆司

1 単元名 はたらく犬について調べよう「もうどう犬の訓練」(東京書籍3年下)

2 単元について

○ 本単元では、並行読書をして働く犬について調べたことをリーフレットにまとめて紹介する活動を通して、大事な言葉や文を見付けながら読み、書かれている内容を要約することができることをねらいとしている。本単元の教材文である「もうどう犬の訓練」は、盲導犬の定義や役割、訓練段階を、順序立てて説明した文章であり、大事な言葉や文を見付けやすく、段落ごとの内容を捉えやすい。要約を初めて学習する子供たちに適した教材である。

○ 子供たちはこれまでに、「自然のかくし絵」や「ゆうすげ村の小さな旅館」の学習の中で、大事な言葉や文に線を引いたり、キーワードを抜き出したりしながら内容を読み取る学習をしてきた。多くの子供たちが、段落ごとに書かれている内容を正しく捉えることができ始めている。

本単元では、「C読むこと」の言語活動例「ウ記録や報告の文章を読んでまとめて読み合うこと」を具現化するため、単元の終わりに「はたらく犬」についてリーフレットを作成し、紹介し合うという言語活動を位置付ける。単元のゴールを明確にすることで、主体的に読みながら内容を捉え、さらに、目的に応じた要約の力を身に付けていけるように支援していく。

3 本時の学習 (5/12時)

(1) ねらい

盲導犬の最初の訓練について書かれている内容を読み取り、要約することができる。

(2) 展開

学習過程	学習活動	時配	指導上の留意点と評価 <u>評価 &lt;観点&gt; (方法)</u> アンダーラインは研修主題との関連 (視点) 特別な配慮を必要とする子供への支援 ☆	資料等
見通しをもつ	1 リーフレットにまとめることを確認する。 ・もうどう犬とは? ・さいしよの訓練は・・・	5	・ノートや掲示でリーフレットにまとめることやまとめ方を確認する。 ・文章だけでなく、見出しや図、箇条書き等も使ってまとめられていることを確認する。	リーフレットのまとめ方を示した掲示
自分の考えをもつ	2 要約の仕方を考える。 ・二つの文を、一つの文にしているよ。 ・なくなっている言葉があるよ。	10	・要約した文と対応する教材文を比べ、要約の仕方を考えさせる。 ・ <u>それぞれの考えを出し合う時間を設けることで、要約の仕方を多面的に捉えることができるようにする。</u> (視点1)	要約文と対応する文の拡大
	「さいしよの訓練」について書かれている文章を読み取り、要約しよう。			
学び合う	3 課題を確認する。  4 「さいしよの訓練でもうどう犬は、どのようなことをするか」を読み取り、要約したり、箇条書きにしたりしてまとめる。	10	・要約するのは、5・6段落のみにする。 ・もうどう犬、訓練する人のどちらが主語になるか色分けして線を引かせる。 ☆要約が難しい子供には、穴あきワークシートを活用し、どんな言葉を補うとよいかを考えさせる。	要約のポイントの掲示
	5 まとめたことを紹介し合う。 ・さいしよは、人間の言うことにしたがう訓練をするよ。 ・命令は英語で出されるよ。	15	・ <u>ペアで紹介し合い、互いにまとめ方のよいところを伝え合う。</u> (視点3) ☆どんなまとめ方がよいか、掲示を使って視点を与える。 ・友達のまとめ方に触れ、自分のまとめ方を見直す。	穴あきワークシート
振り返る	6 学習感想を書く。 ・要約すると文章が短くなって分かりやすくなったね。	5	文章の要点に注意し、言葉を補ったり書き換えたりしながら内容を要約してまとめている。 <読み> (発表・ノート)	

(3) 視点

・文章を要約し、まとめるための手立て(要約と対応する文を比較させる、主語を意識させるなど)は、効果的であったか。

4 板書計画

11/1

二段落の文章

→

要約した文章

二文 ↓ 一文  
けずった言葉・・・もうどう犬は 町を  
書きかえた言葉・・・もうどう犬も  
↓もうどう犬は  
なかまです  
↓なかまです

課題

「さいしよの訓練」を要約したり、かじよう書きを使ったりして、まとめよう。

五・六段落の文章

さいしよの訓練は？

もうどう犬は、(主語はもうどう犬で)

△要約のポイント▽

- ・もとの文より短くする
- ・大事な言葉や文を使う
- ・分かりやすく書きかえる
- ・言葉をつけたす

子供が  
まとめた要約文

MEMO